

## 令和5年度【大田区立東調布第一小学校・算数科授業改善推進プラン】

### ◎ 学校算数科における分析

学習効果測定の結果の分析	4年	5年	6年
	領域別正答率・問題の内容別正答率の全てにおいて、目標値・区平均・全国平均正答率を上回っているものとそうでないものがある。問題の内容別正答率の内、「口を使った式」「円と球・三角形」では、区・全国正答率を上回っている。	領域別正答率・問題の内容別正答率の全てにおいて、目標値・区平均・全国平均正答率を大きく上回っている。問題の内容別正答率の内、「わり算・計算のきまり」「いろいろな形」「面積」「折れ線グラフと表」では、区・全国正答率と比べ特に高い数値となっている。	領域別正答率・問題の内容別正答率の全てにおいて、目標値・区平均・全国平均正答率を大きく上回っている。特に問題の内容別正答率の内、「割合」「円グラフや帯グラフ・平均」では、区・全国正答率と比べ高い数値となっている。
視点別結果の分析	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	5年、6年生については、目標値・区平均・全国平均を上回っている。4年生については、目標値・区平均・全国平均と同程度である。	5年、6年生については、目標値・区平均・全国平均を大きく上回っている。4年生については、目標値・区平均・全国平均と同程度である。	5年、6年生については、目標値・区平均・全国平均を上回っている。4年生については、目標値・区平均・全国平均と同程度である。

### ◎ 算数科の今回の調査における課題

- 5年生、6年生については、内容別分析の結果、ほとんどの内容において、正答率が、目標値・区平均・全国平均を上回っており、算数科の学力がバランスよく定着しているといえる。4年生の内容別分析の正答率については、目標値は上回っている。しかし、区平均・全国平均については、正答率が上回っているものとそうでないものがある。「大きい数・小数・分数」「たし算・ひき算」「表と棒グラフ」の学習については課題がある。
- 教科の正答率を「基礎」、「活用」という視点から捉えると、目標値は、全学年上回っていた。これらのことから、本校児童は、基礎的な学力に基づいて、それを活用する力が身に付いている児童が多い。
- 本校の算数科における学習定着状況は全体的には良好であるといえるが、基礎的問題の正答率が目標に達していない児童を念頭に置いた授業改善推進プランを推進していく必要がある。

### ◎ 算数科における昨年度の授業改善推進プランの検証

#### 取組における成果◇と課題◆

- ◇ 昨年度の推進プランに基づき、問題解決学習において図や絵を用いて解決の見通しを立てさせたり、式の意味を筋道立てて考えさせたりすることを心がけた。上記のような内容別分析・観点別分析の結果、これらの取組の成果が、特に「思考・判断・表現」を中心に表れてきているといえる。
- ◆ 昨年度は、反復的な学習を取り入れたり、補習教室を活用したりすることにより、基礎学力の定着を図った。しかし数と計算領域における計算ミスが見られることから、各単元におけるふり返りや、タブレットドリル・東京ベーシックドリルなどを活用して、さらに基礎学力の定着を図りたい。

### ◎ 算数科の具体的改善策

#### 授業における具体的な手立て

##### ○学習問題・課題との出合わせ方を工夫する

「遊び（観察や具体物の操作）の中から生まれた問題」、「日常の事象から生まれた問題」、「必然性のある問題」、「児童の問いから生まれた問題」など

##### ○集団検討場面で思考が深まる相互作用を生成する工夫をする

- 個人差（学力差、発表力…）がある中で、一人一人が考えを出し合える工夫
- 小集団グループによる話し合い活動の導入

##### ○問題解決の過程が見える学習環境の整備

- ノートの工夫（見開き2ページに「問題」、「自力解決」、「集団検討」、「まとめ」の流れが分かるように構成させる）
- 板書の工夫（上記の学習過程が一覧できる板書と、掲示物の統一）
- 発表ボード、思考ツールの活用 ・スクールタクトで自分の考えを表現したり、友達の考えから学んだりする。

##### ○練習問題を選択する

- タブレットのアプリを活用し、自分が得意な内容や苦手な内容を選んで問題を解く